

2023年5月21日 No.3668

先週の講壇から

「歌え、デボラ！」

士師記 第5章1節～13節

聖句「奮い立て、奮い立て、デボラよ。／奮い立て、奮い立て、ほめ歌をうたえ。／立ち上がれ、バラクよ／敵をとりこにせよ、アビノアムの子よ。」(5:12)

1. 《おめでたです》 妻が次男を出産した時、助産婦さんから「おめでとうございます。今度も男の子ですよ」とお祝いされました。「創世記」35章17節と同じ台詞に、ドキッとしました。昔から出産を「おめでた」と言いますが、神さまの祝福は誕生の時だけでしょうか。私たちは人生のどんな時も「おめでた」として受け取っていくべきではないでしょうか。同じように、子どもを産んだ者だけが「母親」ではありません。全ての人の中に「母性」は備えられているのです。
2. 《肝っ玉母さん》 士師デボラは「イスラエルの母」と呼ばれています。「ラピドトの妻」と書かれているので「主婦」だったのでしょうか。聖書には「女預言者」が数多く登場しますが、デボラほど強いリーダーシップを発揮した女性はいません。紀元前12世紀、イスラエルは部族ごとに各地域に散らばって暮らしていました。そんな中、逸早く王国を築き、鉄製の武器と戦車をもって支配力を伸ばしたのがカナン人でした。圧倒的な軍事力を誇ったカナン軍に対して、諸部族を糾合し、信仰の一致と民族の誇りによって打ち破ったのが、デボラでした。普通「国母」と言えば、皇后や皇太后を意味しますが、デボラは王族でも豪族でもありませんでした。同胞が圧制に苦しむのを見兼ねた主婦、肝っ玉母さんだったのです。

《凱歌を上げる》 「デボラの歌」はイスラエルの民がカナンの軍勢に勝利したことを祝って歌った勝ち鬨、凱歌です。旧約聖書の中でも最古の文書とされています。「わたしデボラはついに立ち上がった」と決意を歌う一方で、「奮い立て」と神さまからのエールも歌われています。まず、神さまがデボラを立ち上がらせたのです。神さまが、私たちを絶望や無力感、諦めのどん底から引き摺り出して、立ち上がらせてくださるのです。私たちの人生にも「勝ち目のない戦い」と思われて、悲しい諦めの淵に沈んでしまいそうになることが多々あります。そんな私たちに、主は「立ち上がり、歌声を上げるように」と促されるのです。

朝日研一朗牧師